

論文要旨

所属ゼミ	河野宏和研究会	学籍番号	80530857	氏名	藤原 加奈
(論文題名)					
「中小機械メーカーF社の競争優位持続の為の経営システムの構築 —技術と感性の融合の為に—」					
(内容の要旨)					
本研究は、筆者の実家である醸造・食品機械メーカーF社に対する強い想いが出発点となった事例研究である。6年前に社長であった父が事故に遭い、専業主婦であり業務経験の全くなかった母が会社を経営している。技術にも長け強いリーダーシップもあった父が突然亡くなったことで、F社は一時混乱した。父が亡くなる数年前は、バブル崩壊の影響で納入先の設備投資が冷え込み、受注が激減して業績が悪化、希望退職者を募り、賞与を払えない時期も数年あった。そんな苦しい時期を乗り越え漸く業績が回復しかけた頃に、突然夢半ばに亡くなったのだから、父は当然無念であっただろう。老舗機械メーカーであるF社の社名を、「テクノ(技術)」と「アート(感性)」という言葉を含んだ名前に変更し、新たに「いい顔で、こころ発信」というコーポレート・メッセージを加えた父の頭に、どのような経営ビジョンがあったのだろうか。「その想いを明確にした上で、きちんと継承したい。」という自分の強い想いをベースに、「父の経営ビジョンの具体的な意味を追及すること」が本研究の第一の研究目的である。 事例対象であるF社は、日本酒・焼酎・味噌・醤油などの醸造分野でパイオニア企業として麹づくり自動化への道を切り開き、事業を拡大してきた。原料処理・仕込み・発酵・圧搾工程における機械を製作する他、全ラインを自動化する為のプラント建設にも対応している。製品は、生産規模・産地・原料など顧客により全て異なり、醸造機械もプラント建設も受注生産である。 製品のライフサイクルが長く、成熟業界で技術とノウハウの必要なビジネスモデルである為、競合が少なく、「自動製麹装置」の7割のシェアを抑えているという業界内のポジショニングに助けられ、業績は回復してきている。しかし、父のビジョンが真に実現されているとは言いきれない。感覚的には本質的課題を感じながらも解決策が思い浮かばず、社内改革が実現されていない。このような現状に対し、客観的にF社を分析しF社の本質的課題を見出すことは、私の強い想いを実現させる為にも重要なことである。したがって第二の研究目的は、「経営ビジョンと現状の乖離を引き起こすF社の本質的課題を追求すること」である。 上記の研究目的を達成するために、本研究ではF社の製品、市場、顧客、内部管理などを分析した後、特に顧客からのクレームに着目し、クレームの背後にある要因の考察から、F社の本質的課題について考察している。その際、F社の強みを失うことなくクレームに対応するという観点、更には顧客のニーズとしてクレームを有効に活用するという観点から、クレームへの対応策を、「F社の競争優位持続の為の経営システムの構築」という見方で整理・分析し、「新たな経営システムを導入することで発生する負の部分をいかに少なくしながら、F社の社風に適合した経営システムを構築出来るか」について、具体的な提言をまとめている。					